

令和7年度学校経営計画書

学 校 名 三次市立和田小学校

校 長 名 龍 王 由 美

I 学校の状況

学級数	9	児童・生徒数	67	教職員数	15
メールアドレス	wada-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.miyoshi-wada-e.hiroshima-c.jp				

II 学校教育目標

「つながりを大切にし、自ら考え、行動・挑戦する子供の育成」

【めざす子供像】

つながる子 考え行動する子 挑戦する子

◎つながる子 (ひと・もの・ことと関わる子、認め合う子)

＊学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養【主体性】【協働性】

◎考え行動する子 (学ぶ喜びを感じる子、考え行動する子)

◎挑戦する子 (自分の夢や目標に向かって挑戦する子)

＊生きて働く知識・技能の習得【知識・技能】

＊未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成【思考力】【判断力】【表現力】

【めざす学校像】

○児童一人一人がいきいきと楽しく学ぶ学校

【めざす教職員像】

○社会や子供の変化に柔軟に対応し、アップデートし続ける教職員

【基本理念】

一人一人の力を最大限に伸ばし、可能性を引き出す学校経営の推進
(子供ファーストの視点での学校経営)

塩町中学校区小中一貫教育

【身に付けさせたい資質・能力】

- ①知識・技能 (基礎的な知識や技能の習得、既存の知識との関連付け)
- ②思考力 (課題の発見、情報の収集・蓄積、知識・技能の活用)
- ③判断力 (情報の取捨選択、結論の決定)
- ④表現力 (意思・意見の表現)
- ⑤主体性 (主体的な学び、進路の実現)
- ⑥協働性 (他者と協働・思いやり、社会へ貢献)

コミュニティ・スクール
重点とする資質・能力

【児童・生徒の姿(5つの約束)】

- ①話をよく聞く
- ②自分の思いを伝える
- ③あいさつをする
- ④家庭学習を毎日する
- ⑤テレビ・ゲーム・SNS利用のルールを守る

Ⅲ 使命・存在意義（ミッション）

なりたい自分の夢の実現のために、和田のひと・こと・ものとの対話を通した多様な体験活動を通して、ふるさと和田への郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。

Ⅳ 重点事項（努力事項）

- 1 自ら課題を設定し、他者と協働して解決していくことを通して、獲得した知識や技能を汎用する力を付けるとともに、学ぶ喜びを感じる。
- 2 なりたい自分に向かって挑戦し、最後まで粘り強く取り組む態度を身に付ける。
- 3 他者とのつながりを大切にして関わる中で、相手のよさや自分のよさに気づき、認め合う態度を身に付ける。

Ⅴ 中心価値・行動規範

- 1 社会人としての自覚をもち、責任ある行動をとることで、信頼される学校、信頼される教職員となります。
- 2 子どもを大切にし、自分や家族も大切にします。
- 3 報告・連絡・相談・確認・記録を行い、協働して指導・支援にあたります。
- 4 社会の変化に適応し専門性を高めるために常に学び続け、協働する教職員集団となります。
- 5 働き方改革を進め、効率化を図りながらも充実した教育活動を提供します。

Ⅵ 現状分析

外部環境	【支援的要因】 ○地域	【強み】 ○学校	内部環境	【支援的要因と強みを生かした取組】
	・自然環境に恵まれ、地域のひと・もの・ことが充実している。 ・地域の教育力の高さと学校教育活動への協力及び支援体制が整っている。 ・挨拶運動、登校指導、安全パトロール等、児童の安全を守る活動に協力的である。 ・保小・小小・小中・小高の連携体制が整っている。	・ICTを効果的に活用できる職員が多い。 ・同僚性が高く、一丸となって教育活動を推進できる。		○地域の教育的財産を生かした教育内容の創造 ○学校教育目標の実現に向けた資質・能力を意識した教育活動 ○特別支援教育の視点を大切にしたい個別最適な学び・協働的な学びの推進 ○ICT活用等による多様な表現の場の設定 ○主体性を育む縦割り班活動、学級活動、和伸会・委員会活動の充実
外部環境	【阻害的要因】	【弱み】	内部環境	【弱みを克服し、疎外的要因を回避する解決策】
	・校区が広く、少子化と高齢化が進んでいる。 ・活躍の場を設定しやすい児童数である一方、児童数が少ないため集団学習の設定ができていない。	・基礎学力や自己有用感が低い児童がいる。 ・自ら考えて行動・挑戦することに消極的な児童がいる。 ・生活習慣（メディア使用等）が確立していない児童がいる。 ・個別の支援や関係機関等との連携を必要とする児童が増加している。		○理科を中心とした見方・考え方を働かせる授業づくりの推進 ○個別最適で協働的な学びの推進 ○自己有用感の向上をめざした教育の推進 ○メディア使用のルール厳守等、基本的な生活習慣の確立を目指した家庭との連携 ○関係機関と連携した家庭への支援の実施

VII 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価項目
確かな学力の定着	確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成	基礎・基本の力、活用力の定着	・分かりやすい授業、個に応じた指導により、基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ICT等の活用により、思考を深め表現するとともに、学びを整理・蓄積する。	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上 ・単元末テスト（国算理）「思考力・判断力・表現力」における基準（70%）以上の児童の割合 85%以上
		主体的な学び	・児童が疑問や気付きをもち、解決する学習を仕組む。 ・児童自ら考えて取り組む学習（個別最適な学び・協働的な学び）をファシリテートする。	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上 ・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」80%以上
豊かな心の育成	自他を尊重し、豊かな感性と社会性を身に付けた児童の育成	ひと・もの・こととつながる心の育成	・読書習慣を身に付け、豊かな感性（知識力・想像力・集中力・語彙力）を育む。 ・道徳など教育活動全般において、人とつながる心を育む。	・読書目標冊数（低：月8冊、高：月4冊）を達成した児童の割合 78%以上 ・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上
		人権意識、自己有用感の向上	・気持ちのよい挨拶をする。 ・縦割り班活動、委員会活動、学級活動等で他者と協働して取り組む。	・児童アンケート「レベル3（相手の目を見て）の挨拶ができた」85%以上 ・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身に付け、健康でたくましく生きる児童の育成	基礎体力の向上	・体育科の授業、委員会等の児童の主体的な取組により、体力づくりを進める。	・職員アンケート「体育科の授業、委員会、体育的行事の充実」85%以上
		基本的な生活習慣の確立	・メディアの使用の仕方を自ら管理し、健康な生活を送る。	・児童・保護者アンケート「家でのメディアルールが守れている」80%以上 ・保護者アンケート「我が子の使用実態を把握している」80%以上
信頼される学校	保小中高の連携を進め、保護者、地域から信頼される学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	・小中一貫教育を基盤とし、地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校評価を学校運営に生かす。	・外部関係者を招聘した教育活動 各学年2回以上 ・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上
		働き方改革の推進	・業務改善の推進、職員のタイムマネジメント力の向上を図る。 ・教育DX（指導方法の改革・業務改善）を推進する	・職員の超過勤務 月45時間以内 100%以上 ・働きがいを感じる教職員 85%以上